

令和5年10月3日

予察情報 5-7

# 病害虫発生予察情報 第7号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 10月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量			
大豆	紫斑病	少ない	果樹	黒星病	やや多い			
野菜	白ねぎ	さび病		やや多い	日本なし	ナシヒメシンクイ	並	
		軟腐病		少ない	ぶどう	カイガラムシ類	やや多い	
		黒斑病・葉枯病		多い		べと病	やや多い	
		ネギアザミウマ		やや多い	黒とう病	並		
		ネギハモグリバエ		並～やや少ない	かき三社	炭疽病	少ない	
		シロイチモジヨトウ		多い		フジコナカイガラムシ	少ない	
		野菜全般		ハスモンヨトウ	やや多い	もも	せん孔細菌病	並
タバコガ類	やや少ない				カイガラムシ類		並	
果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類		並	花き球根	チューリップ	球根腐敗病	多い
	りんご	褐斑病		少ない		皮膚病	やや多い	
		炭疽病		少ない		きく	白さび病	少ない
		カイガラムシ類		並		花き全般	アブラムシ類	少ない
							ハスモンヨトウ	やや多い
		タバコガ類	やや少ない					

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>



## I 大豆

### 1 紫斑病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・主要感染時期である8月中～下旬の降水量は少なかった（平年比約22%）。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・刈遅れは発病を助長するので、刈り遅れに注意し、収穫後は速やかに乾燥する。

## II 野菜

### 1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・9月25日調査の発病株率は0.8%で平年（0.5%）より高かった。
- ・7月調査の発病株率は平年より高かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：98 ページ参照

### 2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・9月25日調査の発病株率は1.6%で平年（5.9%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・防除指針：99 ページ参照

### 3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・9月25日調査の発病株率は24.0%で平年（9.0%）より高かった。

(3) 防除対策

- ・黒斑病・葉枯病の発生を抑制するため、他の病害虫を含めて薬剤防除を計画的に実施する。
- ・防除指針：98～99 ページ参照

#### 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 9月25日調査の被害株率は65.6%で平年(48.9%)よりやや高かった。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針：100ページ参照

#### 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：並～やや少ない  
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 9月25日調査の被害株率は14.4%で、平年(25.0%)より低かったが、発生が多い地域もみられる。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針：99～100ページ参照

#### 6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数は286.4頭で、平年(170.6頭)より多かった。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針：100～101ページ参照

#### 7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる現地ほ場の9月5半旬の誘殺数は101.1頭で、平年(74.9頭)よりやや多く、農業研究所内の8月6半旬～9月5半旬までの誘殺数は1,638頭で平年(661頭)より多かった。
- ・ 防除員による9月県内各地域のヨトウ類の被害は多いと報告されている。
- ・ 10月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針：67～134ページのハスモンヨトウの項参照

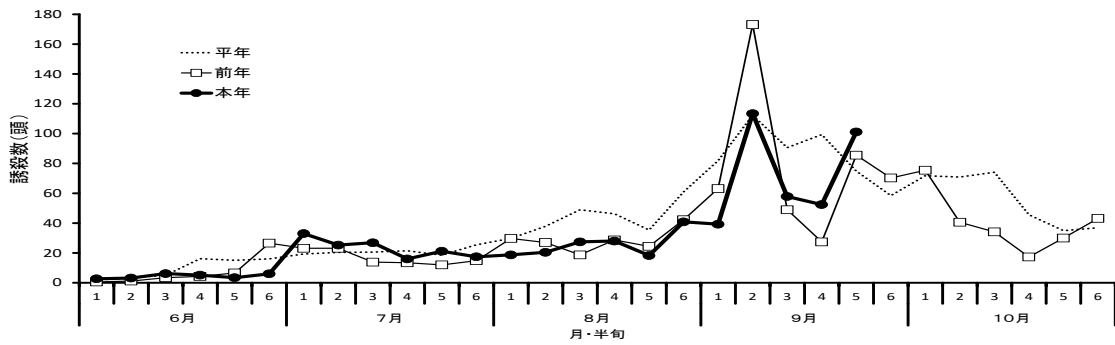


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数推移

## 8 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが34.7頭で平年(52.9頭)よりやや少なく、オオタバコガも53.7頭で平年(92.4頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：68～130ページのタバコガ類の項参照

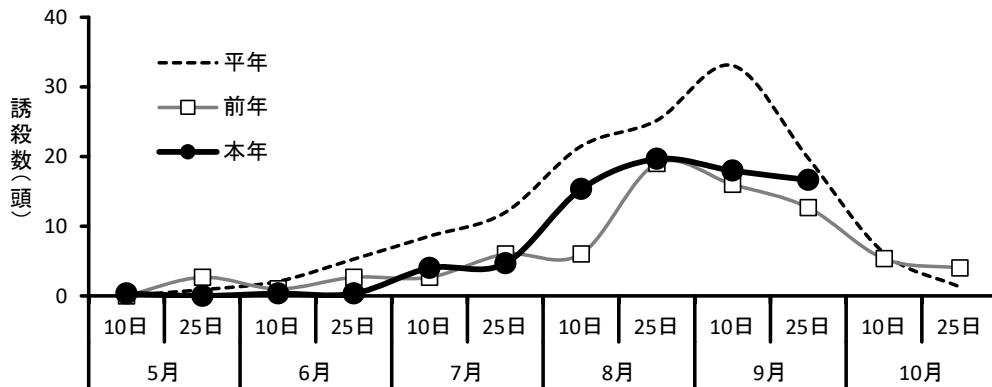


図2 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数推移

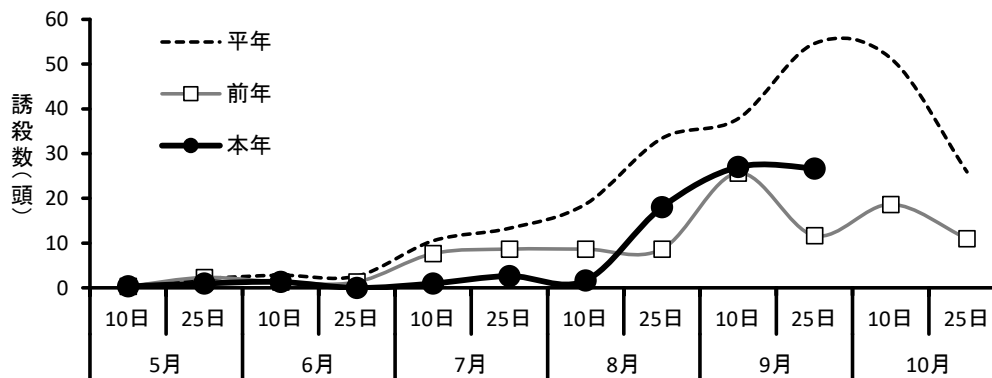


図3 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数推移

## IV 果樹

※収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。

### 1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は2.9頭で平年（4.0頭）並、クサギカメムシの誘殺数は0.3頭で平年（0.6頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・園地への飛来状況に注意し、飛来がみられた場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・防除指針：りんご 143、146～147、日本なし 154、157～158 ページ、かき 169 ページ参照

### 2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・現在までの発生量は平年より少なかった。
- ・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・長雨が予想される場合や発生の多い園地では、殺菌剤を散布する。なお、SDHI 剤（混合剤を含む）の使用は、原則年2回以内とする。
- ・薬剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・り病した葉は見つけ次第、園地外へ持ち出して処分する。
- ・発生の多かった園地では、病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理（園地外に持ち出し処分、乗用草刈機による粉碎等）を徹底する。
- ・防除指針：139～141、145～146ページ参照

### 3 りんごの炭疽病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・現在までの発生量は平年より少なかった。
- ・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策
- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
  - ・防除指針：141、145～146 ページ参照

#### 4 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
- ・発生の多い園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びスプレーオイル（50 倍）を散布する。
  - ・多発樹では、スプレーオイル散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
  - ・防除指針：137、143～144、146～147 ページ参照

#### 5 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・現在までの発生量はやや多かった。
  - ・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
- ・芽基部感染による病原菌の越冬密度を下げるため、10月上中旬以降、10～14日間隔で2回秋季防除を実施する。また、発生の多かった園地では、11月上旬に殺菌剤の追加散布を実施する。
  - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・り病落葉による病原菌の越冬密度を下げるため、落葉処理（園外に持ち出し適切に処分、乗用草刈機による粉碎処理、ロータリによる土壌すき込み等）を徹底する。
  - ・防除指針：150～153、156 ページ参照

#### 6 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は19.2頭で、平年（19.0頭）並であった。
- (3) 防除対策
- ・被害果は見つけ次第園地外に持ち出して処分する。
  - ・防除指針：153～154、157～158ページ参照

## 7 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・現在までの発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・発生園では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
- ・多発樹では、マシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
- ・防除指針：148、153～154、157～158 ページ参照

## 8 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・現在までの発生量はやや多かった。

・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策

- ・収穫後に銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。
- ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害落葉は集めて園地外に持ち出して処分する。
- ・防除指針：159～163ページ参照

## 9 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

・現在までの発生量はやや多かった。

・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策

- ・収穫後に銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。
- ・病原菌の越冬密度を下げるため、被害枝や棚線に残っている巻づるや穂軸基部は除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・防除指針：159、161～163ページ参照

## 10 かき（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：遅い

- (2) 予報の根拠

### 【少発及び遅発要因】

・開花期以降、発生は確認されていない。

・10月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・り病した枝や果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・長雨が予想される場合は、定期防除に加え、QoI剤又はナリアWDGを散布する。
- ・病原菌の越冬密度を下げるため、り病枝はせん定時に切除する。
- ・防除指針：166～168ページ参照

## 11 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・生産現場でのフェロモントラップによる8月4半旬～9月3半旬の誘殺数は96.0頭で、平年（158.8頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・発生の多かった園地や樹では、越冬幼虫の密度を下げるため、休眠期に粗皮削りを行うとともに発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。また、発芽前～発芽期にスタークル顆粒水和剤の樹幹塗布を実施する。
- ・防除指針：165～166、168～169ページ参照

## 12 もものせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412（30倍）散布する。
- ・発生の多かった園地では、病原菌の越冬密度を低下させるため、10月上旬にICボルドー412（30倍）を追加散布する。
- ・防除指針：171～172、174ページ参照

## 13 もものカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・発生の多かった園地では、翌春の発芽前の暖かい日を選びマシン油乳剤を散布する。
- ・多発樹では、マシン油乳剤散布前にワイヤーブラシなどで削り落とす。
- ・防除指針：170、172、174ページ参照



## IV 花き・球根

### 1 チューリップの球根腐敗病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・収穫時に球根腐敗病の発生がみられた。
- ・10月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・り病球を除去するなど種球の選別を徹底する。
- ・地温の高い時期の球根の植付けは発生を助長するので、適期の植付けに努める。
- ・ベンレート耐性菌も確認されているので、スポルタック乳剤など耐性菌の確認されていない剤を用いて、植付け前の球根消毒を確実にを行う。
- ・防除指針：188 ページ参照

### 2 チューリップの皮膚病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・一部で貯蔵球根に裂皮、皮膚病の発生がみられている。

(3) 防除対策

- ・り病球を除去するなど種球の選別を徹底する。
- ・植付け前の球根消毒を確実にを行う。ただし、フロンサイド水和剤とスポルタック乳剤を混用処理すると薬効が落ちるため2剤の組み合わせでの使用は避ける。
- ・防除指針：188 ページ参照

### 3 きくの白さび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・9月25日調査の発病株率は0%と平年(0.2%)並に低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：190～191 ページ参照

### 4 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤による9月6半旬～9月4半旬の誘殺数は313.0頭で、平年(550.5頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：188～212 ページのアブラムシ類の項参照

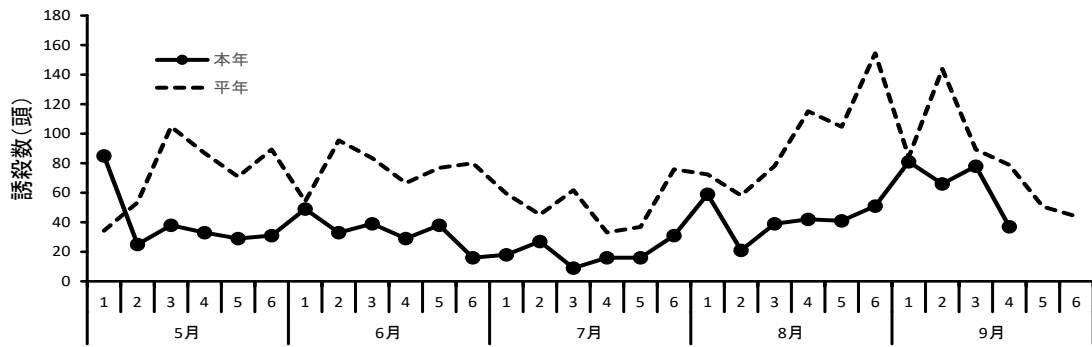


図4 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数推移

## 5 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・フェロモントラップによる現地ほ場の9月5半旬の誘殺数は101.1頭で、平年(74.9頭)よりやや多く、農業研究所内の8月6半旬～9月5半旬までの誘殺数は1,638頭で平年(661頭)より多かった。
- ・防除員による9月県内各地域のヨトウ類の被害は多いと報告されている。
- ・10月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針：188～212ページのハスモンヨトウの項参照

## 6 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月6半旬～9月5半旬の誘殺数はタバコガが34.7頭で平年(52.9頭)よりやや少なく、オオタバコガも53.7頭で平年(92.4頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針：196、202、203、208、209、212ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農業を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

北陸地方 3か月予報  
 (予報期間 10月から12月)

9月19日  
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

- 10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
 気温は、高い確率50%です。
- 11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
- 12月 平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。  
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	10月~12月	20 30 50
		10月	20 30 50
		11月	20 40 40
		12月	20 40 40
降水量	北陸地方	10月~12月	40 30 30
		10月	30 40 30
		11月	30 40 30
		12月	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)